Infectious Diseases Weekly Report
iDWR HIROSHIMA City
2004年第35週（8月23日～8月29日）

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

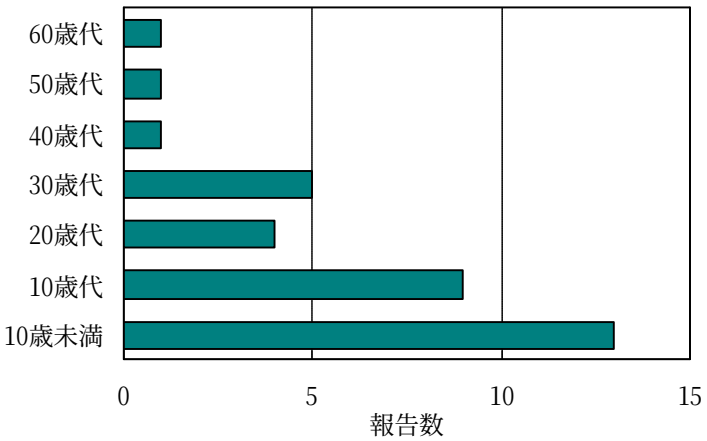
5件の報告がありました。今年の腸管出血性大腸菌感染症は、4月に今年初めての報告があった後、5月の12件を除き、月0～2件と比較的少ない傾向にありましたが、8月の報告数は18件となり、急増しています。これからも気温の高い日が続くものと思われますので、注意が必要です。

2. ヘルパンギーナ

定点当り1.08人と増加しています。安芸区では4.5人となっています。

腸管出血性大腸菌感染症の年齢階層別報告数

（2004年第1～35週）



5類感染症報告状況（定点把握対象分）

疾患名	報告数	定点当り	過去4年間平均（注1）	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	過去4年間平均（注1）	発生記号
インフルエンザ（注2）	-	-	-		麻しん（注3）	-	-	0.03	
咽頭結膜熱	7	0.29	0.21		流行性耳下腺炎	15	0.63	0.91	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.29	0.61		RSウイルス感染症	-	-		
感染性胃腸炎	85	3.54	2.05	⇨	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	8	0.33	0.74		流行性角結膜炎	6	0.75	1.57	
手足口病	11	0.46	0.95		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	5	0.21	0.26		無菌性髄膜炎	4	0.57	0.25	
突発性発しん	29	1.21	1.10		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.29	
百日咳	3	0.13	0.02		クラミジア肺炎（注4）	-	-	-	
風しん	-	-	0.02		成人麻しん	-	-	-	
ヘルパンギーナ	26	1.08	0.64	↗					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1：2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1：1.5～2の増減
微増減	⇧	⇩	前週と比較しておおむね1：1.1～1.5の増減
横ばい	⇨		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数	37（小児科定点含む）
小児科定点数	24
眼科定点数	8
性感染症定点数	9
基幹定点数	7

（注1）過去4年間の同時期平均（定点当り）
（注2）高病原性鳥インフルエンザを除く
（注3）成人麻しんを除く
（注4）オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況（全数把握対象分）

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	5	34	男性(10歳代)・O157，女性(10歳代)・O157，男性(20歳代)・O157 男性(20歳代)・O157，男性(10歳未満)・O26

5類感染症報告状況の推移（定点把握対象分）

			インフルエンザ（注1）	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん（注2）	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（注3）	成人麻しん
報告数	広島市	第31週	-	36	12	86	20	10	6	21	1	-	71	-	13	-	-	11	-	4	-	-	-
		第32週	-	19	16	69	14	6	9	18	-	-	45	2	16	1	-	6	1	2	-	-	-
		第33週	-	19	10	89	7	11	4	18	1	-	32	-	8	-	-	3	-	5	-	-	-
		第34週	-	8	9	80	11	11	7	23	-	-	17	1	9	-	-	8	-	1	1	-	-
		第35週	-	7	7	85	8	11	5	29	3	-	26	-	15	-	-	6	-	4	1	-	-
定点当り	広島市	第31週	-	1.50	0.50	3.58	0.83	0.42	0.25	0.88	0.04	-	2.96	-	0.54	-	-	1.38	-	0.57	-	-	-
		第32週	-	0.79	0.67	2.88	0.58	0.25	0.38	0.75	-	-	1.88	0.08	0.67	0.04	-	0.75	0.14	0.29	-	-	-
		第33週	-	0.83	0.43	3.87	0.30	0.48	0.17	0.78	0.04	-	1.39	-	0.35	-	-	0.38	-	0.71	-	-	-
		第34週	-	0.33	0.38	3.33	0.46	0.46	0.29	0.96	-	-	0.71	0.04	0.38	-	-	1.00	-	0.14	0.14	-	-
		第35週	-	0.29	0.29	3.54	0.33	0.46	0.21	1.21	0.13	-	1.08	-	0.63	-	-	0.75	-	0.57	0.14	-	-
	全国	第33週	-	0.57	0.43	1.91	0.49	0.97	0.15	0.66	0.01	0.01	1.19	0.01	0.77		0.01	0.75	0.01	0.09	0.22	0.02	-
		第34週	-	0.49	0.43	2.26	0.48	0.89	0.15	0.75	0.01	0.01	0.85	0.01	0.90		0.03	0.98	0.02	0.09	0.22	0.01	-

(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	8	男	2004/07/17	髄液	エコーウイルス6型
無菌性髄膜炎の疑い	2	男	2004/07/19	咽頭拭い液 髄液 糞便	エコーウイルス6型
急性脳炎(疑)	5	男	2004/07/07	咽頭拭い液	アデノウイルス5型
扁桃炎	3	男	2004/07/25	咽頭拭い液	アデノウイルス3型

【参考】腸管出血性大腸菌感染症について

腸管出血性大腸菌感染症は、大腸菌O157などベロ毒素を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症で、症状のないものから、腹痛や下痢を伴うもの、さらには重症化して著しい血便を伴うものなど症状は様々です。経口感染がほとんどで、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。（感染力が強いため、感染予防には、次のことに十分注意してください。基本的には他の細菌性の食中毒に対する予防方法と同じです。）

(1) 手洗いの励行

- トイレの後や、調理の前、食事の前には、石けんと流水でよく手を洗います。
- 患者の世話をしたときは、手を洗った後、逆性石けんまたは消毒用アルコールで消毒を行います。

(2) 消毒

- 患者が使用したトイレ、洗面所等のドアのノブなどを消毒します。（逆性石けんまたは両性界面活性剤などを規定の濃度にうすめて布に浸して絞り、拭き取ります。）
- 患者が使用した衣類などは、家庭用漂白剤につけ置きした後、洗たくします。

(3) 食品に対する注意

- 大腸菌は熱に弱いので、仮に食品が大腸菌に汚染されていたとしても、十分に加熱すれば安全です。
- 生肉の調理に使用したまな板、包丁、食器等はよく洗浄した後、熱湯などで十分消毒します。（そのまま他の調理に使わないよう注意します。）また、生肉を扱った後は、よく手を洗います。
- 野菜を生で食べる場合は流水で十分洗浄します。ブロッコリーなど複雑な形のものはゆがいた方が無難です。
- 焼肉の時は、生肉を取るはしと食べる時に使うはしを別々にしましょう。
- 調理した食品はなるべく早めに食べます。

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html
なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2004年第35週（8月23日～8月29日）